

学生の確保の見通し等を記載した書類

滋賀県立大学大学院 人間看護学研究科

人間看護学専攻 博士前期課程

## 目次

(1) 新設組織の概要 .....	3
①新設組織の概要 .....	3
②新設組織の特色 .....	3
(2) 人材需要の社会的な動向 .....	3
①新設組織で要請する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析 .....	3
ア. 全国における社会的動向 .....	3
イ. 地域における社会的動向 .....	4
②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析 .....	5
ア. 全国的動向 .....	5
イ. 地域的動向 .....	5
③新設組織の主な学生募集地域 .....	6
(3) 学生確保の見通し .....	6
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果 .....	6
ア 既設組織における取組とその目標 .....	6
イ 新設組織における取組とその目標 .....	7
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数 .....	7
②競合校の状況分析 .....	8
ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性 .....	8
イ 競合校の入学志願者動向等 .....	8
ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等 .....	9
エ 学生納付金等の金額設定の理由 .....	9
③先行事例分析 .....	9
④学生確保に関するアンケート調査 .....	10
(4) 新設組織の定員設定の理由 .....	11

## (1) 新設組織の概要

### ①新設組織の概要

新設組織	入学定員	収容定員	所在地
滋賀県立大学大学院 人間看護学研究科人間看護学専攻 博士前期課程	8 人	16 人	滋賀県彦根市八坂町 2500

### ②新設組織の特色

本学研究科博士前期課程では、多様なニーズを持って生きる人々を深く理解し、看護の専門性をより高度に幅広く展開できる、主体的・独創的な看護職の育成を目ざし、研究コース（基盤看護学部門）においては、専門基礎、基礎看護学、精神看護学、在宅看護学、公衆衛生看護学の5領域、研究コース（生涯健康看護学部門）においては、母性看護学、小児看護学、成人看護学、老年看護学の4領域、専門看護師育成コース（高度実践看護学部門）においては、慢性疾患看護分野、在宅看護分野の2領域、助産師育成コース（助産学部門）においては、助産学の1領域、合わせて3コース4部門12領域で構成している。

学生が前期課程修了時には、以下の能力を身につけられるよう取り組んでいる。

- ① 学際的・国際的な視野に立ち、生涯にわたって社会に貢献できる基礎的な能力
- ② 高度な専門的知識と卓越した技能を修得し、質の高い看護を実践できる能力
- ③ 社会のニーズに基づく研究課題を明確化し、創造的に解決する方策を探究する研究能力
- ④ 看護専門職者として深い学識・高潔な倫理観・豊かな人間性を備え、総合的な判断力と調整能力を発揮して指導的役割を担える能力

## (2) 人材需要の社会的な動向

### ①新設組織で要請する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

#### ア．全国における社会的動向

日本では、世帯の家族構成や地域社会の関係性の変化、複数の疾病や障害による健康問題の複雑化・長期化、経済格差による健康格差などによって、国民の健康へのニーズは多様化している。そこで、厚生労働省は令和7年を目途に、地域包括ケアシステムの構築を推進している。このように、あらゆる療養の場で生活する人々を支え、高度化する医療に対応するために、看護職の看護実践力の強化をはじめ、教育力や研究力、チーム医療におけるマネジメント力やリーダーシップ力の育成が求められている。複雑で多様化する国民の健康へのニーズに応えるとともに、高度化する医療に対応できる質の高い看護職を育成するため、看護基礎教育では看護専門学校から大学への移行が急激に進んでいる。看護系大学の現状を見ると、令和6年10月現在、看護系大学286大学（入学定員数26,100人）、大学院修士課程209大学（入学定員数3,148人）、大学院博士後期課程121大学（入学定員

数 691 人) となっている。10 年前の平成 25 年度と比較すると、看護系大学 210 大学(入学定員数 17,779 人)、大学院修士課程 144 大学(入学定員数 2,474 人)、大学院博士後期課程 71 大学(入学定員数 519 人) から増加している【資料 1】。

その一方で、一般社団法人日本看護系大学協議会および一般社団法人日本私立看護系大学協会が会員校 292 校を対象として令和 3 年に実施した「看護系大学(国公立) 教員数に関する調査結果」【資料 2】によると、回答した 203 校のうち 80.8% (164 校) が、過去 6 年間に当該年度の 4 月 1 日時点で教員定数を充足できなかったと回答している。看護系大学数が増加している中で教員数は不足しており、教員の確保が課題となっている。

また、文部科学省高等教育局医学教育課調べ【資料 3】では、看護系大学の専任教員の構成年齢を平成 25 年度と令和 4 年度とで比較すると、50～59 歳の割合は 31% から 37% に、60 歳代の割合は 14% から 19% に増加している一方で、40～49 歳の割合は 33% から 29% に、30～39 歳の割合は 19% から 12% に減少している。このように、教員の半数以上の割合を占める 50・60 歳代が数年後に定年を迎えることが予測でき、大学教員の早急な育成が社会的に喫緊の課題である。

令和 5 年度看護系大学院修了者(修士・博士前期課程)の進路状況は、医療機関などが 64%、博士課程進学が 7%、看護系学校教員 10% となっている【資料 1】ことから、修士・博士前期課程においては看護系教員養成も重要な役割の一つでもある。

また、令和 6 年度現在、大学院(修士・前期課程) 209 校のうち、108 校の大学院(修士・前期課程)では高度実践看護師の養成が行われており、研究力と共に、看護実践力の向上においても重要な役割を担っている。【資料 2】

【資料 1】文部科学省，令和 6 年，看護系大学の現状と課題

【資料 2】一般社団法人日本看護系大学協議会・一般社団法人日本私立看護系大学協会  
「看護系大学(国公立) 教員数に関する調査結果」

【資料 3】文部科学省，令和 5 年，看護系大学の現状と課題

## イ．地域における社会的動向

滋賀県では『誰もが自分らしく幸せを感じられる「健康しが」の実現～健康的な生活を送るための「医療福祉」の推進』を基本理念とした「滋賀県保健医療計画」を策定している。令和 4 年滋賀県における死因順位の第 1 位は悪性新生物(がん)であり、第 2 位の心疾患は昭和 60 年(1985 年)から第 2 位となり、これ以降も増加を続け、第 3 位の老衰は、令和元年(2019 年)以降から肺炎に変わり 3 位となっている。

上記の疾病構造の動向を踏まえ、滋賀県保健医療計画では、がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病、精神疾患の 5 疾病を重点課題としている。また、高齢化が進む中で疾病や障害を抱えながら生活する高齢者の増加が予測され在宅医療の充実も求められている。このような現状から、滋賀県においては医療の高度化・専門化、さらには地域の課題に応じた看護ニーズが提供できる資質の高い看護職の養成を喫緊の課題としている。

具体的に滋賀県内の専門看護師就業者数の増員も目標にあげ、看護職の定着、資質の向上を目指している。**【資料4】**

本研究科博士前期課程では修士課程から引き続き、助産師の育成と慢性疾患看護、在宅看護の専門看護師を養成し、地域における看護系人材の要請にも貢献できると考える。

#### **【資料4】滋賀県，滋賀県保健医療計画の概要**

### ②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

本研究科博士前期課程の入学対象者は、学士の学位を持つ看護系大学や看護専門学校卒業生で本研究科が実施する入学資格審査において受験を認められたものである。

#### ア．全国的動向

令和5年の18歳人口は110万人であり、大学進学率は57.7%、専門学校は21.9%であり、高等教育機関への進学率は年々上昇している。看護師等学校養成所（看護系大学・専門学校）の入学定員では、令和元年の6万8千人をピークとして、令和5年は6万5千人となっている。その内、看護系大学は入学定員の39.8%を占め、平成14年の13%より大幅に増加している。一方、厚労省指定養成所が占める入学定員については、平成14年の65.1%から令和5年には50.4%と減少しており、進学者の大学志向への変化がみられる。

看護系大学大学院修士・博士前期課程の入学定員数も平成14年約1,000人から令和5年では3,148人と大幅に増加している。さらに学校養成所における助産師養成可能人数についてみても、大学院は平成22年の5.8%から令和5年には15.4%に増加し、養成所では平成22年の45.5%から令和5年には31.5%に減少している。これらからも研究力や看護実践力の向上を目的とした大学院進学者の増加が認められる。**【資料1】**

#### イ．地域的動向

令和5年度滋賀県内の看護師等学校養成所の入学者数は、4年制大学3校（定員222人）看護師養成所3年課程（定員315人）である。滋賀県内においては、令和6年4月現在で、看護学の修士の学位が取得できる大学院を設置している大学は3校（国立1校、公立1校、私立1校）となっている。各入学定員は国立の滋賀医科大学大学院医学系研究科看護学専攻16人、公立の滋賀県立大学大学院人間看護学研究科8人、私立の聖泉大学大学院看護学研究科6人で合計30人（収容定員60人）である。令和5年5月現在の在学者数は、それぞれ48人、22人、9人で、合計すると収容定員を上回っている。令和4年度における修了人数はそれぞれ6人、7人、7人となっているが、滋賀県においても修士・博士前期課程入学希望者も一定数存在していることが想定される。

また、令和4年度に滋賀県が実施した「看護職実態調査」**【資料5】**における看護に関する最終学歴によると、回答した県内の看護師等学校養成所に勤務する看護教員134人のうち、最も多いのは「専門学校卒業」で44.0%となっている。次いで「大学院(修士課程)修

了」が23.9%であり、看護師等学校養成所などの教員において今後も博士前期課程への入学対象者が一定数存在していることが分かる。

#### 【資料5】滋賀県看護職実態調査報告書

#### ③新設組織の主な学生募集地域

前述したように、令和6年10月現在、看護系大学286大学（入学定員数26,100人）、大学院修士課程209大学（入学定員数3,148人）となっており、令和5年度滋賀県内の看護師等学校養成所の入学者数は、4年制大学3校（定員222人）看護師養成所3年課程（定員315人）である。滋賀県内においては、令和6年4月現在で、看護学の修士の学位が取得できる大学院を設置している大学は3校（国立1校、公立1校、私立1校）となっている。各入学定員は国立の滋賀医科大学大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程16人、公立の滋賀県立大学大学院人間看護学研究科8人、私立の聖泉大学大学院看護学研究科6人で合計30人（収容定員60人）である。

本研究科博士前期課程の主な学生募集地域としては、本学の位置する滋賀県北部湖東地域を中心とした滋賀県および生活圏の近い岐阜県西部の西濃地区や、福井県南部の嶺南地区と考えている。なお、滋賀県に隣接する府県で博士前期課程を設置しているのは、岐阜県が4校、福井県が4校、京都府は6校で計14校のみである【資料6】

滋賀医科大学大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程は、滋賀県南部で京都市に隣接する位置にあり、京都や大阪の大都市と繋がる生活圏である。滋賀県北部に位置する本学と滋賀医科大学では生活圏や地域課題に違いがある。本学の博士後期課程の設置により博士前期課程から博士後期課程を見据えた修士や助産師、専門看護師志望の学生の入学も見込まれ、滋賀県北部の看護職のキャリア支援につながると考える。

#### 【資料6】一般社団法人日本看護系大学協議会 2024年度会員校（大学院一覧）

#### ⑤ 既設組織の定員充足の状況

過去5年間の本学研究科修士課程定員8名における入学試験結果は、令和6年度は出願者9名、入学者7名、令和5年度は出願者9名、入学者5名、令和4年度は出願者13名、入学者11名、令和3年度は出願者16名、入学者10名、令和2年度は出願者4名、入学者4名となっており、5年間の平均入学者は7.4人とほぼ定員を充足している。さらに、社会人対応として、長期履修制度も導入しているため、学生の在籍状況は安定しており、博士前期課程に移行後も定員充足状況の変わりはないと考える。

#### （3）学生確保の見通し

##### ①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

○人間看護学研究科の広報活動

本学附属施設の地域交流看護実践研究センターと連携し、公開講座等の参加者に対して積極的に学生募集の案内を行っている。参加者は社会人が多いことから、在職しながら大学院に進学することがイメージできるよう、長期履修制度や、夜間・土曜日開講の案内、履修計画モデルを示す等、より効果的な広報活動も行っている。

公開講座等の参加者だけでなく、当該センターが実施している、臨床現場で看護研究をサポートする立場にある人を対象に行う看護研究学習会参加者や、看護研究相談者に対しても修士（博士前期）課程の広報を行っている。

また、本学人間看護学部の実習先などへの訪問時や滋賀県内の看護職員が多く集まる会議時などに、大学案内パンフレットや学生募集要項を配布し、周知を図っている。

さらに、大学ホームページにおいて、博士前期課程の人材養成目的や教育研究内容等の大学院情報について一般に向けても広く発信している。

#### イ 新設組織における取組とその目標

##### ○オープンキャンパスでの大学院相談会の実施および広報活動の強化

学部対象に実施するオープンキャンパスで、博士前期課程、博士後期課程の個別相談会を実施する。個別相談会参加希望者の中には、説明会に参加した年度ではなく、今後の入試を予定している者もいることから、博士前期課程志願者に対しても、今後のキャリア形成の選択肢として博士後期課程の紹介も行いながら、博士前期課程の受験について発信していく。

多くの進学希望者が来場するオープンキャンパスで、全体説明会等でも大学院の紹介を行い、学生確保につなげる。

大学ホームページにおいて既に行っている修士（博士前期）課程の人材養成目的や教育研究内容等の大学院情報の充実を図り、病院など他施設や研修会などにおいてもパンフレットの配布などもより一層強化し、情報を発信していく。

##### ○大学院人間看護学研究科説明会の開催

オープンキャンパス時の大学院相談会とは別に、学生募集要項完成後に大学院人間看護学研究科説明会を開催し、教育研究内容や履修モデル、研究指導スケジュール等の説明を行う。博士後期課程への進学希望者に併せて、博士前期課程志願者に対しても合同で説明会を実施し、博士後期課程への進学も視野に入れたキャリアプランを提供できるようにする。学部卒業生や前述の公開講座等参加者、さらには博士後期課程の学生確保・人材需要アンケート送付先等へ案内するとともに、在学生に対してはオリエンテーション時や指導教員を通じて周知する。

#### ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

既設組織での取組結果から、オープンキャンパスでの説明会や、地域交流看護実践研究

センターの公開講座等で大学院学生募集の案内を行うことは有効と言える。また、後述する大学生に対するアンケート結果からもわかるように、卒業と同時に本研究科博士前期課程に進学を希望する者が特に助産師コースには一定数存在することがわかる。在学生への学生確保に向けた取り組みと共に、社会人に向けた取り組みも継続して実施し、学生確保につなげていく。

## ②競合校の状況分析

### ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

前述したように、本研究科博士前期課程の主な学生募集地域としては、本学の位置する滋賀県北部湖東地域を中心とした滋賀県および生活圏の近い岐阜県西部の西濃地区や、福井県南部の嶺南地区と考えている。

滋賀医科大学大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程は、研究コース、看護管理コース、高度実践コースの3コースに分かれ、高度実践コースには特定行為研修と（母性CNS）専門看護師の養成を行っており、国公立であることなどの類似性があり、競合校として考えられる。また、同じく彦根市にある聖泉大学大学院は修士課程で研究コースのみを開設している。別科助産専攻を置き、1年間で助産師の養成を行っている。私学ではあるが、立地面などからも競合校として考えられる。岐阜県では、近くに競合校が2校存在する。岐阜県立看護大学大学院博士前期課程は研究コースと、専門看護師コースに分かれ、小児看護、がん看護、慢性看護の専門看護師を養成しており、私学の岐阜保健大学大学院看護学研究科看護学専攻修士課程では、研究コースと助産師コースと保健師コースに分かれ、保健師、助産師を養成しており、どちらも本研究科博士前期課程との類似性がある。

福井県では、同じく公立である敦賀市立看護大学大学院看護学研究科看護学専攻修士課程が研究コースで競合校と考えられる。なお助産学専攻科では、1年間で助産師の養成を行っている。本研究科博士前期課程においては、専門看護師育成コース（高度実践看護学部門）の在宅看護分野や、助産師育成コース（助産学部門）において差別化を図っている。

### イ 競合校の入学志願者動向等

競合校の令和6年度入試結果については以下に表に示す。なお、岐阜保健大学の結果については記載していない。

名称	入学定員	受験者数	受験倍率	入学者数
滋賀医科大学大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程	16人	13人	0.8	12人
聖泉大学大学院看護学研究科	6人	—	—	6人
岐阜県立看護大学大学院博士前期課程	12人	8人	0.7	6人
敦賀市立看護大学大学院看護学研究科	8人	2人	0.3	2人

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等

前述のとおり、過去５年間の本学研究科修士課程定員８名における入学試験結果は、令和６年度は出願者９名、入学者７名、令和５年度は出願者９名、入学者５名、令和４年度は出願者１３名、入学者１１名、令和３年度は出願者１６名、入学者１０名、令和２年度は出願者４名、入学者４名となっており、５年間の平均入学者は７．４人とほぼ定員を充足している。専門看護師育成コース（高度実践看護学部門）の在宅看護分野や、助産師育成コース（助産学部門）においては近隣の大学院との差別化を図っており、博士後期課程を見越しての博士前期課程入学希望者へも期待がもてる。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

本研究科博士前期課程の授業料等については公立大学法人滋賀県立大学における授業料その他の料金に関する規程【資料７】に定められており、本学既存の大学院他研究科と同額とする。前述の競合校を含めた学生納付金は、下表に示すとおりである。

【資料７】授業料その他の料金に関する規程

名称	入学金		授業料年額	初年度納付金
滋賀県立大学大学院 人間看護学研究科	県内の者	282,000 円	535,800 円	817,800 円
	県外の者	423,000 円		958,800 円
滋賀医科大学大学院 医学系研究科看護学専攻	282,000 円		535,800 円	817,800 円
岐阜県立看護大学大学院 看護学研究科	県内の者	226,000 円	357,200 円	583,200 円
	県外の者	338,000 円		695,200 円
敦賀市立看護大学大学院 看護学研究科	市内の者	166,000 円	535,800 円	701,800 円
	市外の者	332,000 円		867,800 円
聖泉大学大学院 看護学研究科	200,000 円		500,000 円 教育充実費 200,000 円	900,000 円

③先行事例分析

本研究科と同様に、公立大学大学院で、近年看護学研究科の修士課程を博士前期課程に変更した事例を分析する。令和６年現在の博士前期課程の在籍学生数を確認したところ、下表のとおりであった。

名称	設置年度	募集定員	受験者	合格者	入学者
新見公立大学大学院 博士前期課程	令和5年度	4人	4人	3人	3人

#### ④学生確保に関するアンケート調査

本研究科博士前期課程設置のため、本学部在校生を対象にアンケート調査を行った。

その結果、22人から回答を得た。回答者のうち、学部卒業と同時に大学院への進学を考えている者は3人(14%)、将来的に進学を希望する者が5人(23%)、進学を希望しない者は10人(45%)、わからないが4人(18%)であった。

そのうち、学部卒業と同時に大学院への進学を考えている、将来的に進学を希望すると回答した者に対して進学する場合の大学等の設置者について尋ねると複数回答であるが、国立を希望する者は8人、公立を希望する者も同じく8人、私立を希望する者は3人であった。本学大学院博士前期課程を第一志望とする者は3人(38%)、第二志望とする者も同じく3人(38%)、受験しないが2人(25%)であった。本研究科博士前期課程を受験すると回答した者に本学に合格した場合に入学すると回答した者は3人(50%)、志望順位が上位の他の志望校が不合格した場合入学する者は3人(50%)であった。受験すると回答した6人の現時点での学びたい部門については6人すべて助産学部門であった。

本学研究科博士前期課程への進学を希望しない者にその理由を尋ねたところ、「実務経験を積んでから大学院に進学したい」と2名が回答し、ほかの回答は見られなかった。また、本研究科博士前期課程設置にあたり期待することについては、「研究指導体制」と「通学の利便性」が共に4人と最も多く、次いで「学費」が3人と多かった。

これらの回答から学部卒業と同時に、および近い将来で大学院博士前期課程の進学を考えている者は大学院で助産師 国家試験受験資格を得たいと考えおり、その際には国立大学大学院での進学も視野に入れていることが確認できた。また、将来的な進学希望や進学について悩んでいる者は、経済的な事や看護職として自身の目標など見通しができれば進学を決意する可能性もあると考える。

また、県内や近隣府県の病院や大学・看護学校等の社会人に対してもアンケート調査を実施し102人から回答を得た。

#### 【資料8】滋賀県内や近隣府県の看護職および看護師養成に関わる教員のニーズ調査結果

修士または博士前期課程を修了しているかを尋ねたところ、102人のうち「はい」と回答した者は25人(24.5%)であり、「いいえ」と回答した者は76人(74.5%)であった。いいえと回答した76人に対して、修士または博士前期課程の進学を希望するかを尋ねたところ、「いいえ」が65人(85.5%)、「はい」が11人(14.5%)であった。「はい」と回答した者に対して進

学希望理由を尋ねたところ、「臨床実践能力向上のため」および「臨床でのキャリアアップのため」が各 5 人と最も多く、「研究能力向上のため」および「教育職をめざしているため」が各 4 人と続いていた。【資料 8】

卒業生を含めた社会人においても一定数進学を希望する者がいるため、本研究科博士前期課程についてより一層特色や魅力を周知することで、将来的な入学希望者につながると考えられる。

#### (4) 新設組織の定員設定の理由

本研究科修士課程では、平成 19 年の開設以来、修士課程の修了生は約 100 人（令和 5 年 4 月現在）にのぼり教育現場や各実践現場などで活躍している実績がある。修士課程に引き続き博士前期課程では、基盤看護学部門と生涯健康看護学部門の研究コース、慢性疾患看護分野、在宅看護分野からなる専門看護師育成コース（高度実践看護学部門）、助産師育成コース（助産学部門）の 3 コース 4 部門を設置する。助産学育成コースは入学定員を 4 名とし、研究コースと専門看護師育成コースを併せて入学定員を 4 名とし計 8 名の入学定員とする。過去 5 年の平均入学定員は 7.4 人の現状からも引き続き 8 名の定員が適切であると考ええる。